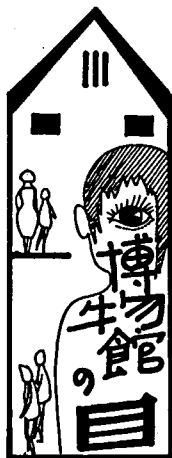


岐阜の博物館

〒501-32 関市小屋名
(百年公園内)
岐阜県博物館内
岐阜県博物館協会
TEL (05752) 8-3111 (代)
振替 名古屋 37909



目覚めてほしい……博物館側も！

本誌53号に載っていた「軽視されがちな自然史分野」の中で、“博物館関係の出版物が目立ってきているものの、博物館のおかれている現状は旧態依然である。ことが指摘されている。あの文によってまだまだ立ち遅れている博物館の実状が、鮮やかに浮き彫りにされたとも云える。

たしかに博物館関係の出版物は、最近目にみえて増加しており、つい五年ほど前の状況と比べてさえ、格段の進歩といえる。こうした現象は、社会の中にある潜在的な欲求、期待の現われであり、博物館にとっても非常に喜ばしい傾向といえる。けれども、これらの社会的な要求・期待に対する博物館側の反応、対応は、今ひとつ鈍いのではないだろうか。

最も基本的な展示についても、相変わらず珍奇なものをただ並べて見せるだけとか、何年も同じものをそのままほったらかしの所が多い。入館者が増えないとこぼすわりには、そのために必要な対策を全然考えてみようもしないなど、博物館側のあり方そのものが、昔のままで目立った進歩がみられないような気がしてならない。博物館の活動を盛んにし、活発な館園の増加のために、二つのことをまず提言したい。

まず第一に、資料目録を外部に向けて公開してほしい。そこの博物館に何があるのか分からないようでは問題にもならない。現在、多くの博物館に欠けている点である。そのうえで、資料の解説書や展示説明書等を刊行し、有料でも

いいから入館者が手にできるようにすべきである。もうひとつは、より多くの地域の人々を、博物館に招き入れる工夫をしてほしい。観光客相手に片寄りすぎたところがあるなど、最も肝心な博物館のある地域の住民への積極的な働きかけ、その努力を怠ってきたように思える。博物館の存在する地域周辺の住民にとって、大した利用価値も何の魅力もないと、存在意義は認められず入館者も増えない。博物館活動の支えとなるエネルギー源として、地域住民をこそとり込み、地域に生きて働きかける社会教育施設としての役割を自覚し、その機能を発揮すべきである。そのための方策はいくらでもある。資料解説・展示説明といった基本的なことすら不足した現状なのだから、とにかく出来ることから何でも手がけるべきである。博物館側の努力の積み重ねの中から、地域社会に密接した活動的な館が生まれてこよう。

ちょうど今、「博物館学講座」(全10巻、雄山閣発行)も完結間近である。博物館側の人々こそ、新しい博物館像を求めて、研修を重ね、理論武装をこそする必要がある。だれのために、何をどうするのか……過去を問い直し、地域における社会教育機関としての役割を考えながら、活動する博物館へと脱皮する努力……理論学習と実践の積み重ねもしないで、ものを並べて見せているだけなら、「博物館」という顔看板などおろすべきである。博物館人及び博物館関係者各位に、利用する側のひとりとして、博物館側の発奮と一層の努力、研修研究を望むと共に、博物館が博物館として、その全機能を充分発揮するよう大いなる期待を寄せたい。(K.M. 投稿 会社員)

岐南町歴史民俗資料館

▽ 501-61 羽島郡岐南町伏屋 198番地

TEL 0582-46-4111

去る8月1日に完工式が行なわれオープンしたばかりの「岐南町歴史民俗資料館」を訪れた。明治中期以降の代表的な農家の姿をとどめた「旧宮川家」が移築され「大戸・くぐり戸」「ワラたたき石とつち」「にわとりのとまり木」などがそっくり残された「どま」に、まず農民の労苦や生活の知恵が偲ばれた。丁度「ざしき」では、夏休みの親子郷土学習会が行なわれており、実物建築に肌で触れながらの農家のつくりや人々の暮らしの勉強会が行なわれていた。教室内的で書物を中心とした社会科学学習が、いかに無味乾燥なものであるのか……を、ひとりでも多くの児童生徒に知ってもらいたいと願うこと切である。

これに隣接して鉄筋コンクリート平屋建て約350㎡の資料館があり、展示室の他に、管理研究室、収蔵庫、くん蒸室等が設けられている。この建物は、今後南側に図書館が増築される予定である。図書館と、それに並設された実物資料の収蔵と展示教育を目的とした資料館のあり方は、地方自治体の文化教化施設のあり方とし

(旧宮川家内での親子学習会のようす)

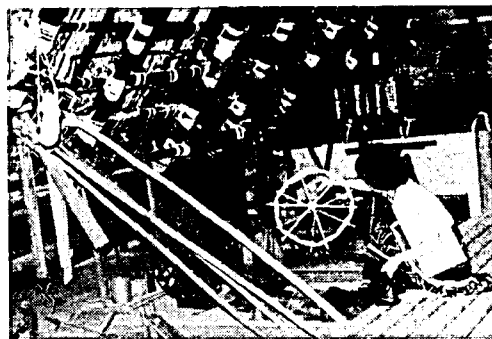


(移築された旧宮川家と展示室：右側)

てはまさに理想的なものといえる。

都市化現象が著しく、すっかり農村としての機能も形態をも失ってしまった曲型事例地～岐南町にとって、旧宮川家の保存及び資料館の完成は、単に古きをなつかしみ偲ぶ場とするだけでなく、郷土の歴史・民俗学習の「教育の場」として活用されてこそ意義があるといえる。それだけでなく、町内から収集された2,000点を越える生活用具、農耕用具、養蚕用具等の資料も、収蔵庫に死蔵された「ゴミクズ」にすぎないし、何のための資料館かわからないといえる。町民に積極的に働きかける資料館活動、つまり、公民館活動との連携による学習会の実践、あるいは学校教育にこいこむ資料館教育のあり方など、今後の活動に期待するところは大きい。物を展示して見せる……だけの施設ではなく、物とヒトとを心で結びつける機関として、より充実することを望みたい。開館は9時～16時まで、管理人不在の場合は隣の町体育館事務所へ申し出ること。

(旧宮川家階上での生活用具の展示)



小学校2年生の博物館学習

～ 岐阜県博物館での実践例 ～

各務原市立那加第三小学校 奥村正彦

博物館の存在を知らせ、利用する場合の潜在エネルギーをたくわえさせることを主目的として、例年秋の社会見学に博物館現場学習をとり入れてきたが、反省として、学習内容と関連をもたせ、より具体的なねらい設定の必要がとりあげられてきた。

1. 理科の学習

2年生として、岐阜県博物館を利用する場合、理科の面では「草むら、水中などの動物を探したり、工夫して飼ったりさせながら、それらの食べ物、住んでいる場所、動きなどの違いがあることに気付かせる（学習指導要領）」学習のため、自然展示室1の「自然のすがた」の展示内容は、利用価値が極めて高い。

2. 社会科の学習

社会科の面では、「職業としての仕事に携わっている人は、それぞれ工夫していることや、それらの仕事は自分たちの生活にとって必要なものであることに気付かせる。また職業としての仕事を具体的に観察させ、効果的に表現させる（学習指導要領）」ための発展として、博物館で働く人に焦点をあてた博物館学習をとりあげることができる。これは、博物館をよりよく知るためにも、また学校で学習したことを生かす即ち学習の転移発展からも有意義なことであ

る。

3. 博物館学習のねらい

上記のような観点から、昨年度、前任校（羽島郡松枝小学校）で実施した一例を報告する。

(1) 博物館の自然展示室1を見せることによって、博物館への興味関心を持たせ、利用してみたいという気持ちを持つようにさせる。

(2) 博物館で働く人は、分担し協力しあいながら、仕事をしているのを見たり、聞いたりする中で理解させる — の二つをねらいとした。

4. ねらいにせまるために

上記(1)のねらいにせまるために、現場学習の場所を2年生の学習内容と関連の最も深く、しかも子ども達の興味関心の強い自然展示室1だけにしぼることにした。

そして、各クラスにコンパニオン1人を配置していただき、説明や応答の援助をしてもらった。

当時博物館で働いている人は、館長1、学芸員14、警備4、受けつけ2、コンパニオン6、技術3、事務8、清掃4の計42人であった。

これらの人を通して、上記(2)のねらいにせまるために、次の三つを考えた。

⑦博物館内を見てまわる時、働いている人に注意しながら見る。



（研修室で働いている人の紹介）



（警備員・コンパニオン・清掃員も列席）

①子ども達の前で、各種の仕事をしている代表の人に集まってもらって、自己紹介と努力・工夫している点を話していただく。

②博物館で働いている1人の人に焦点をあてて、その人の1日の仕事を、スライドを使って追っていく中で、博物館で働いている人々を登場させ、おたがいの関係をわからせる。

この計画にそって、事前に教育普及係の方と話し合い、ご指導・協力をいただいた。

5. 事前指導

まず博物館学習のねらいを話す。展示物をよく見る。博物館で働いている人は、どんな人がいて、どんな仕事をしているかはっきりさせる。そして、メモのとり方を話す。約束をしよう。— みんなできめあった約束は、話をきく時は、ムダロをいわない。わかったことは、すぐメモするの二つ。

6. 事後指導

各自のメモを整理した後、わかったことや思ったことを発表しあい、これらを作文に書く。

M君の作文(部分)

「はくぶつかんには、きょうりゅうの骨があったり、いろいろないき物がいた。ぼくはいき物がすきなので、またいきたい。こんどは、もっとゆっくり見てみたい」

Aさんの作文(部分)

「はくぶつかんで、はたらいっている人は、いっぱいいることにおどろいた。それに、いろいろなしごとをしている人がいることにもおどろいた。いろいろなしごととに、わかれてやっ

るところは、工場ににているなあと考えた。」

7. スライドの内容

学芸員安藤さんの一日を中心に20コマで構成。標題は「博物館で働く人たち」。岐阜県博物館所有。所要時間約25分。

自宅からの出勤。通勤途中。博物館到着。受け付け。研究室へ。標本整理。見学者が博物館へ。玄関へ。コンパニオンの案内。学習室。図書室。収蔵庫。収蔵庫での仕事。技術員のおじさん。事務室の人たち。会計から給料を受けとる安藤さん。館長さん。警備員のおじさんの18コマがその内容。それぞれ解説がつく。

8. 最後に

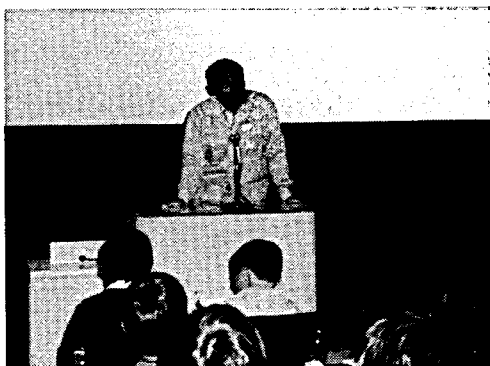
子ども達は、博物館での学習のあと、もう一度博物館へ行ってみたいと声を揃えていった。博物館に興味関心を持ったということでは、博物館学習のねらいのひとつは達成されたと言える。

もうひとつのねらいである社会科学学習面では、子どもの作文の中に、工場で働く人との関連でとらえたり、いろいろな仕事をしている人がいることへの驚きがみられており、試みとしてはよかったと考えている。

学習時間を1時間30分としたため、二つのねらいを十分に達成させるには、やや無理があったようである。余裕を持った時間を最初から設定することが大切であった。

いずれにせよ、博物館学習は、子どもの中で、生きてはたらくものであらねばならないと思う。

岐阜県博物館の皆さんの協力に感謝します。



(技術員さんからも話をきく)



(コンパニオンの案内)

博物館の展示模型を用いた「輪中」学習

岐阜県歴史資料館 堀 部 満

過日、教室を博物館へ移して、博物館にある展示資料を使つての授業を見せてもらったので、その概要と所感の一端を報告する。

1. 学年と単元

4年生。「低地の人々のくらし」（学習指導要領には、「自然条件からみて国内の特色ある地域について、人々が自然環境に適応しながら生活していることを理解させ、広い視野から地域社会の生活を考えようとする態度を育てる」としてされている。それで大部分の学校では、輪中地帯の学習を取り入れている。

2. 学習資料

岐阜県博物館人文展示室1、「V. 濃飛の江戸時代」の『27. 輪中』展示の森部輪中模型（以下輪中模型という）及びその隣にある輪中の断面と水位の変化模型（以下断面模型という。共に1000分の1）の二つ。

輪中模型は、明治22（1889）年の地籍図を基に森部輪中（現安八郡安八町）を厳密に復原したものであり、単一輪中として極めて模式的な輪中景観及び機能を兼ね揃えたもので、原理的な輪中理解に非常に好都合な資料である。

もうひとつの輪中断面模型は、輪中を断面からとらえ、水の変化と輪中とのかかわりを創作的に提示したもの。この二つは互に関連し合

って輪中理解を具体的なものとする。

3. 授業にあたって

この博物館学習に先だち、指導教師（4クラス・4名）は、博物館学芸員と事前に研究会をもたれ、単元構成の中での本時の位置づけ、模型資料を用いた授業組み立ての可能性及び資料の持つ限界等について詳細な打合せを実施されている。

その結果、4クラス中2クラスは輪中模型からはいい、他のクラスは輪中断面模型からはいい。研究的である。指導は学級毎学級担任。

なお、同時に映画「輪中」（約30分）を上映して、輪中学習のふかまりをはかっておられる。

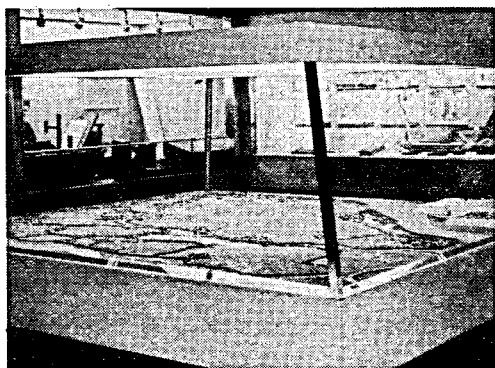
4. 授業にみられた児童の姿

教室授業とは環境も資料も異なる授業であったが、精度の高い模型資料であるためか、児童の観察も鋭く、かつ具体的に理解した点が特に目だった。授業構造の組みたてを今一步配慮すれば、相当追求的な授業展開が可能であることを確認した。

5. 授業の流れ（4クラス中の1例）

授業者：羽島郡松枝小学校 西脇康雄教諭。
ねらい：輪中では、堀田で米をつくっていたことがわかる。

授業時間：50分。



（森部輪中の大模型）



（輪中断面と水位の変化模型）



(輪中模型による学習)

輪中模型の横に全員腰をおろして始める。

(Tは教師、Cは児童の略)

T₁ 今日は低地の人々の暮らしについて、この大きな模型を使って学習します。輪中はどこにあるか、プリントをみて下さい。今日は森部輪中について勉強しましょう。この模型の中で、何がみたいですか。

C₁ 松枝の家とくらべてみたい。C₂ 模型の中の人々のくらしと、松枝のくらしをくらべたい。C₃ 輪中の人々の工夫。C₄ 堤防の切れたところはどうなっているか。C₅ 田や畑はどうなっているか調べたい。

T₂ この輪中模型の見方を説明します。まず北の位置をはっきりするよ。(模型の周囲に児童集まる) 堤防の上をこれから歩いていきますよ。(輪中堤にそって歩きながら、環状となっている輪中形態の特色を把握させる) 大池のところから出発だよ。Yの字になっているな。地図でいうとどの辺かな。堤防の外に家があるな。墓があるな。それ、大池にもどってきた。今日は、いま見てきた堤防の中だけで、みんな調べたいと思ったことをみつけよう。プリントに書いて下さい。字でも絵でもいいよ。あと5分。おかしいと思ったことも書いていいよ。あと1分。もう少し見たい人。ではあと2分だけ。(模型を見ての調べ学習) さあ集合。(最初の体形に集まる) どんなことを見つけたかな。発表して下さい。

C₆ 家がかたまって建っていた。C₇ 真中には家がない。C₈ 畑や田んぼがいっぱいある。



(模型のある部屋で学習)

C₉ 田畑は家より中心にある。C₁₀ どの家にも木が1本はある。C₁₁ 家は1階建てが多い。C₁₂ 家は堤防の近くにかたまっている。C₁₃ 真中にも池がある。C₁₄ 家のまわりに木がある。C₁₅ 水屋をもった家もある。C₁₆ 田んぼの中に水の流れるところがある。C₁₇ それは道路のようになっている。C₁₈ 道路がぐにゃぐにゃである。C₁₉ 堀田になっている。C₂₀ 道が途中で切れている。C₂₁ 神社が多くある。C₂₂ 堤防の近くに神社がある。C₂₃ 真中に神社がない。C₂₄ 今とくらべて道が少ない。C₂₅ たまり水がいっぱいある。(児童の発見事項について、内容の確認、共通認識にたてるような話し合い必要。本時のねらいにせまる整理が必要)

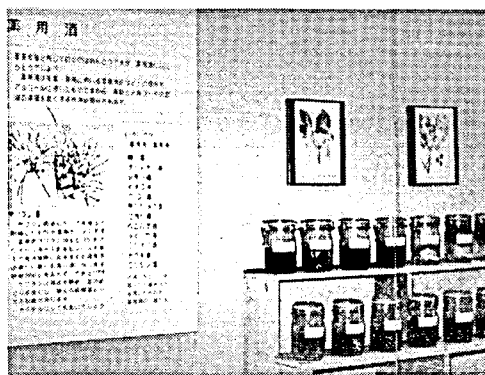
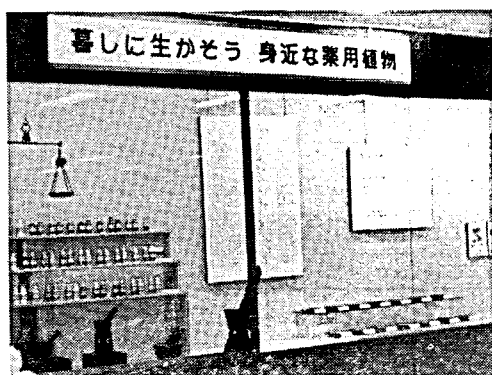
T₃ 輪中というのは(図を板書)。これでよいか。C₂₆ 田んぼより畑の方が高いです。

T₄ 堀田というのは(図を板書して、溝の土を田の上に積むことを説明)

T₅ 断面模型で今のところをたしかめてみよう。(断面模型の前に全員集まる) 一番低いのはどこかな(板書。川→堀田→畑→水屋) ボタンを押してたしかめてみなさい。(なぜ堀田ができたか、人と水の戦いの意味などでまとめられた。)

他の断面模型からはいったクラスでは、本時のねらいを「輪中では、水の被害を守るため、水屋を使っている家もある」として進められた。

やはり、児童の活動等から、前者の輪中模型からはいる方が、理解しやすく感じた。児童達のいきいきとした目は学習の成立を思わせた。



誌上紹介

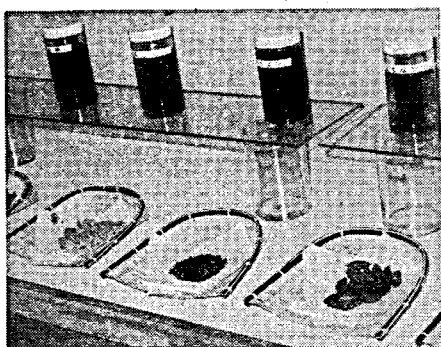
くすり博物館の特別展

羽島郡川島町内藤記念くすり博物館では、去る7月28日から11月29日まで 長期特別展を開催中。漢方薬と民間薬、香辛料の数々、薬用酒と薬用茶、野外生活の知恵、小石川御薬園関係資料、本草図譜類、ドドネウスの草木誌など、身のまわりの植物に関心をもっていただくことを目的として、「暮らしに生かそう ～ 身近な薬用植物」を開催中、カメラ訪問による誌上紹介をしてみました。会期中に、ぜひ一度はお出かけ下さい。百聞は一見にしかず……です。館外の付属薬用植物園もご覧下さい。（編集部）

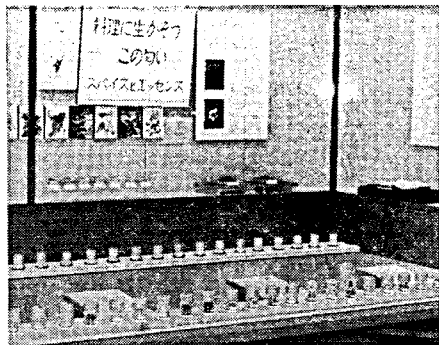
▼男の値打ちは本棚を、女の値打ちはスパイス棚を見ればわかります…と青木館長



▼染める…のコーナー、身近な植物を使った草木染めに関心を……



▼47種類が、実際に見たり匂いを嗅いだりできます。



▼美しく描かれた江戸時代の植物図鑑の数々が見られます。



県内ニュース

熊沢館長の「スケッチ展」盛況

本協会理事、岐阜県陶磁器陳列館熊沢輝雄館長の「スケッチ展」が、去る8月11日まで多治見市内のギャラリー「わかお」で開催され、多くの人々の目を楽しませました。本職の陶芸作品とはちがった面から、花、山岳、風景等のスケッチ画24点が展示され、館長の巾広い美意識に接することができました。第二回、三回と、今後のスケッチ展を望みたいものです。

県美術館開館いざない展へどうぞ

開館を来年の秋に控え、これまでに収集された美術作品の代表を、この9月15日から27日まで、岐阜県博物館で「いざない展」として紹介します。ルノアール、川合玉堂、前田青邨、熊谷守一、坪内節太郎、坂井範一その他の名画約80点が展示され、会期中入館の方には、カラー絵はがきが記念として配布されます。毎月曜日休館、博物館入館料とともで、一般250円、高大生160円、小中生90円、(20人以上団体割引)、美術館完成模型も展示されます。ぜひともお出かけください。

「サル」の学校」をこー読んでください。

本協会顧問、日本モンキーセンター付属博物館学芸部長、広瀬鎮氏の労作で、中公新書。第一章サルの学校を訪ねて、二猿まわしへの興味、三熊毛半島記、四サルの芸能と芸態、五猿まわし芸能者の心、六猿まわしの旅・日々暮し、七さまざまな学校、八サルの教育研究会の八章からなっています。“この芸能の将来は猿まわし芸能博物館の設立にかかっていると思っている。日本の芸能史博物館の一つとして、この大道芸能の過去から現在までのあらゆる資料が収集・調査・研究され、「輪」すなわち「和」の大眾芸能が人びとに与えてきた喜びを追っていく

ことができ、生きた芸能として継承されるようになる日が来るのを、私は期待する。”と、あとがきで著者が述べておられる。このひとことに博物館人としての著者の全てが表われており、この労作を、より多くの人々に読んでもらいたい由縁です。中央公論社刊、新書判、480円。

自然観察会へ参加を

岐阜県博物館では、百年公園の初秋の植物観察会を開催します。9月23日(水)午後1時30分～16時、小中学生を対象に30人定員、親子一緒に参加も可能です。希望者は、電話か郵便はがきで岐阜県博物館、教育普及係まで申込んでください。雨天の場合は、館内での自然学習会とします。

編集後記

◎博物館の目は、利用する側の方から投稿いただいた原稿を使わせていただきました。協会機関誌とはいえ、博物館とそれととりまく利用者側との意見の交換の場でもあります。今後とも、より多くのさまざまな立場の方々からの投稿を切望します。

◎原稿をお寄せいただく方が、徐々にでも多くなってきました。嬉しい悲鳴をあげつつ、「新収蔵資料紹介」の原稿は、次号へまわさせていただきます。

◎本号は、博物館活用のすばらしい実践例を載せることができました。こうした事例をふまえて、身近な館園及び類似施設等を学校教育あるいは各種団体等での学習会に活用する教育実践が、増々盛んになることを切望します。県内各地には、すばらしい資料を収蔵展示している博物館がじつに豊富です。

◎会員諸氏の気軽なご寄稿を切に望みます。次号は10月中旬の刊行です。(S.O)